

特集 病院機能評価と病院図書室

企画にあたって

会誌編集部

日本医療機能評価機構による「病院機能評価」には、1997年から1999年10月までの2年余りで260機関が合格認定されています。

現在、さらに全国各地の医療機関が評価受審に向け、多くの時間と労力、資金をかけて、適マーク確保に全力を投じています。

この注目の「病院機能評価」については「病院機能評価マニュアル」（日本医療機能評価機構編）の1999年版を筆頭に、多くの出版物およびインターネット上にて合格病院のホームページ等にて知ることができます。

しかし、病院図書室に対する「日本医療機能評価機構」の認識についてはほとんど述べられていません。日本医療機能評価機構が評価する、病院における図書室の役割と立場とはどのようなものなのでしょうか。また、受審病院として図書室ではどのような準備をすればいいのでしょうか。大変興味のあるところです。

病院図書室は、各施設により、その立場や資料収集能力はさまざまで、設備機器においては特に格差がはげしいことは、病院図書室担当者の多くが認識しているところです。その中で担当者の知識、質に関する外部評価基準はどのように決定されるのでしょうか。受審者側のさまざまな不安を日本医療機能評価機構に対して問いかけることを目的に、この特集を企画いたしました。これにより、病院内外を問わず、今までスポットライトの当たらなかった病院図書室の業務へのサンライズを期待できればと考えます。

この企画にご賛同いただき、快くご執筆いただいた方々に感謝いたします。

この特集が、日本医療機能評価機構による病院機能評価についての一面を見ることができると共に、今後病院機能評価を受審される病院図書室の参考になることと、病院管理者の方々に、病院図書室の管理とサービス業務にさらなるご理解とご協力をいただけることを期待しています。